

全関東ダートトライアル選手権大会 グランプリレポート

本校は、昨年に引き続き優勝すべく、練習会を重ねてきました。しかし、その練習会で、試合車になる予定の車輛を2台も壊してしまい、車輛の新規製作を余儀なくされてしまいます。そこで、あらたに購入したスターレット EP82 最終後期を急遽試合車に仕上げ、今大会に挑みました。また、その過程で1つの大きな挑戦をしました。それは、リアの足回りの設計からくる接地性のなさを解消しようと、リアのバネレートを下げ、リアタイヤの接地性を上げる、ということでした。これが、後々どのような結果になるかは、まだ知る由もありませんが、練習会ではなかなか良い動きを見せていました。



新たに作製したスターレット EP82

大会はジムカーナと同じく、1校当たり3人が午前、午後それぞれ1本ずつ走行し、そのベストタイムの合計で順位が決定されます。昨年優勝の早稲田大学は、最終走ということになりました。

天候は雨です。まず、開会式前に、早稲田と慶応の部員・応援部によるエール交換が行われました。



応援部による校歌斉唱です。

コース上の至る所に水溜りが出来ており、コンディションは決して良いとは言えない状態です。まず、デモランナーが走ります。参考タイムは、インテグラで1分34秒ほどです。

さて、1走目の走行が始まります。各校様子を見ながらの走りという感じで、なかなかタイムが上がってきません。速くても1分40秒台という状態が続きます。しかし、慶応大学の1走目が1分39秒8という好タイムを叩き出します。そして

早稲田の1走目今村の番になります。路面を確か

めるように無難に、しかしロスなく走り、見事トップタイムとなる1分38秒5でゴールします。早稲田上々の滑り出しです。

2走目は遠藤です。今年初めて選手をつとめるプレッシャーからか、練習どおりにアクセルを踏んでいくことができません。そして、丸和名物の連続S字コーナーで挙動を乱し、タイムは思うように伸びず、1分44秒3となります。一方の他校勢ですが、早稲田1走目今村のタイムを超えることが出来ませんでした。

そして、各校のエースが集う3走目です。ここでは、エース集団だけあり、相当高レベルの争いが

繰り広げられます。まず、先日の全関東ジムカーナ選手権で個人優勝をしている中央大学のエースが1分38秒4を出して、トップタイムを更新します。さらに、その五分後には、慶応大学のエースが1分38秒1を叩き出します。これで早稲田のエース早川の闘争心に火がつかない訳がありません。気合を入れて出走します。早川曰く、「リアが滑りすぎて踏めない」とのことでしたが、それでもタイムは唯一の37秒台となる、1分37秒8を出します。早川はさすがに昨年からダートの選手を務めているだけあり、見事期待に応えます。

さて、午前の走行が終了し、早稲田は団体4番手です。午後は、遠藤のタイムアップしだいで上位にジャンプアップできる状況となります。昼休みには、コースオープンとなり、選手たちは慣熟歩行へと向かい、選手同士で最終確認を行います。

午後の走行が始まりました。昼休みに雨が止み、路面はこれからだんだんと良くなってくると思われれます。そうすると、最終走順である早稲田大学は有利になるものと思われれます。

午後1走目の今村は、午前で良いタイムを出していたので、期待がかかります。果敢に攻めていきますが、長いストレートから緩やかな左コーナーに入る区間で、ステアリングを切りすぎてしまい、車体が大きく挙動を乱してしまいます。危うくクラッシュというところでなんとか持ちこたえ、その



午後になって雨が上がりました

後は無難に走行し、タイムは1分37秒98でした。路面状況を考えて、もう少しタイムが伸びて欲しいところでしたが、最低限の仕事である午前からのタイムアップはしっかりと果たします。

その後、女子の部の午後1走目で、明治大学の選手が運転する車が横転してしまいます。明治大学は、男子の部と女子の部で共通の車輛を使っていたため、男子・女子の部ともリタイヤとなってしまいました。また、検査入院のため、選手は救急車で運ばれ、自動車競技に潜む危険性を再確認することとなりました。(選手に怪我はなかったようです。)



応援部の声援を受けて出走します

午後2走目の走行に入り、まず慶応の2走目が1分37秒74でトップタイムを更新し、慶応が団体トップに躍り出ます。早稲田の2走目は遠藤です。午前にはS字でタイムロスをしてしまったので、その反省を生かした走行が要求されます。慎重に、そしてロス無く走り、1分39秒2でした。これで早稲田は団体2番手に上がります。団体1位は慶応で、タイム差は0.73秒です。最終走の早稲田早川と、慶応のエース直接対決となります。

まずは、慶応大学です。タイムは1分37秒11でした。これで、早稲田は1分36秒前半のタイムが出せれば優勝ということになります。しかし、早川の目標は、団体優勝と個人優勝のダブル優勝です。それまでのベストは、中央大学の3走目が午後に出した1分35秒34 です。果敢に攻めてい



く早川を、土手の上から部員全員で見守ります。しかし、力みすぎてしまったせいか、路面の凹みで挙動を乱し、バンパーを土手に引っ掛けてしまい、タイムは1分35秒42となり、わずか0.08秒差で個人優勝を逃してしまいました。しかし、団体優勝はしっかり勝ち取り、見事2連覇を達成しました。

2連覇を達成しました！

このようにして、早稲田は全関東ダートトライアル選手権を2連覇し、全関東3戦(フィギュア・ダート・ジムカーナ)を全て制覇し、2年連続で3冠を達成することが出来ました。